

ご挨拶

■ 未来を創る科学研究



薬学科長

滝口 祥令

Yoshiharu Takiguchi

「21世紀はLEDによって照らされる」と、照明に革命をもたらした光の3原色最後の青色LEDの開発・実用化に成功した徳島大学工学部出身の中村修二先生が、赤崎、天野両先生とともに、今年のノーベル物理学賞を受賞されました。ご存知のようにノーベル賞は、ダイナマイトの発明者A. ノーベルの遺言に従って、人類のために最大たる貢献をした人々に贈られる世界的な賞です。

現代社会はこれまでの数多くの科学研究の成果の上に成り立っており、人々はその恩恵を享受しています。科学研究の究極の目標は、知識を創造し社会の役に立つことです。人々の健康への貢献として、創薬研究に新薬の開発による疾病の克服が期待されていることは言うまで

もなく、薬剤師にも科学的根拠に基づく医療（EBM）の時代を迎え、臨床現場から問題点を発掘し臨床研究へと発展させ、医療や薬物治療に資するエビデンスを発信していく、街角の科学者としての姿勢が求められています。

薬学部は現在様々な教育改革事業を通じて、学生諸君の基礎力を高め、科学研究を志向する創造力あふれる徳島大学ブランドのYAKUGAKUJINの育成に取り組んでいます。科学研究で“地方から世界へ”を実現した中村先生の快挙は、私達に夢と希望を与えてくれました。学生諸君も、自身が将来多様な分野で未来創りに活躍するイメージを持ち、その実現に向けて学業に励んで下さい。

学術交流

■ 東國大学校薬学大学（大韓民国）との学術交流



創製薬科学科長

佐野 茂樹

Shigeki Sano

東國大学校薬学大学（College of Pharmacy, Dongguk University）との学術交流協定に基づき、本年度も2名の教員（Prof. Hee-Chul AhnとProf. Young-Won Chin）が来訪され、平成26年9月19日に特別講演会を開催いたしました。両部局間の交流は、平成23年12月に際田弘志前薬学部長と私が東國大学校に新設された薬学大学の創設記念シンポジウムにご招待いただいたことに端を発し、翌年12月には学術研究及び教育上の交流を推進するために学術交流協定が締結されました。その後も両部局間の学術交流は順調に進んでおり、東國大学校薬学大学からはこれまでに8名の教員が来訪されました。本稿の掲載ま



Ahn 先生（左）と Chin 先生（右）

でに斎藤博幸教授と中尾允泰助教の訪韓（平成26年12月）が予定されていますので、徳島大学薬学部からは7名の教員が東國大学校を訪れたこととなります。今後は教員のみならず学生をも交えた学術交流を積極的に推進することにより、両部局間ひいては両国間の関係強化・拡充に寄与できればと考えております。